

## 第5学年 算数科学習指導案

### 1 単元名 単位量あたりの大きさ

### 2 指導の立場

本単元の概要と「学習指導要領」との関連は、次のようになっている。

#### B(4) 異種の二つの量の割合

異種の二つの量の割合としてとらえられる数値について、その比べ方や表し方を理解できるようにする。

#### ア 単位量あたりの大きさについて知ること。

ここでは、これまで学習してきた長さ、かさ、重さのような量のほかに、こみぐあいや人口密度など異種の2つの量の割合としてとらえられる数値があることを学習する。このような事柄について、どのように数値化すればよいかについて考えるようにする。

本単元では、こみぐあいの比べ方から導入し、多様な比べ方から単位量あたりの大きさをを用いるよさに気づき、人口密度その他の単位量あたりの大きさを学習していく。そして、単位量あたりの大きさを定義し、その理解ができるようにしていく。単位量あたりの大きさの考え方で数値化すると比べやすいという「よさ」を味わうためには、教科書の問題を解くだけでなく、実際に身のまわりから同様に数値化できるものから考えるなどの算数的活動を取り入れていくことが大切であると考え。

### 3 研究内容にかかわって

#### 一人一人が主体的に学ぶ児童の育成

～算数科の授業を通して「わかった・できた」と言える子を目指して～

#### (1) 単位時間で付けるべき力に応じた指導過程の工夫

「知識・技能の習得・定着を図る時間」として、習熟度別の3コースの形態で授業を行い、児童の実態に合わせた交流や終末のあり方を工夫した。例えば、こつこつコースでは、全体交流をなくし見通しをもつ時間を十分にとる。また、こつこつコースとちやくちやくコースの課題を「 $1\text{ m}^2$ あたりのとれ高を求めて比べよう」とし、 $1\text{ m}^2$ あたりをキーワードして自分の考えをもちやすくする。さらに、ちやくちやくコースやどんどんコースでは、段階的に難易度を上げていく練習問題を解く時間を位置付ける。この練習問題では、教科書の問題だけでなく、「食品の容器に重さと値段を表示した具体物を提示し、どちらが安いか比べる問題」から「日常生活の中に数多く存在する場面から問題を作り、解決する問題」を取り入れていく。いろいろな練習問題を解くことで、数値化すると比べやすくなる「よさ」を実感させていく。

深めの発問を「比べるためのポイントは何だったのか」とし、『2つの異種の量の割合は、「単位量あたりの大きさ」を求めれば比べられることに気づき、それを活用して問題を解くことができる』という本時のねらいに迫る。

#### (2) 「知りたい・やってみよう」と意欲を引き出す導入の工夫

単元導入では、面積や人数が異なる2つの公園の絵を提示し、「自分はどちらの公園で遊びたいか」を問い、日常生活とつなげて考えさせることで、課題解決への意欲を高めたり、単位量あたりの大きさを求める必然性をもたせたりする。また、既習内容の「人口密度は、 $1\text{ km}^2$ あたりの人口を求めて比べる」や「走る道のりが長いのは、 $1\text{ L}$ あたりの道のりを求めて比べる」等をまとめた掲示物やノートを活用させながら、「前の学習では を使って考えましたね。今日の問題でも を使って考えます。」といった既習内容とつなげる発言ができるようにし、児童一人一人に課題解決の見通しが十分にもてるようにしていく。さらに、問題文にある $60\text{ m}^2$ の広さをイメージすることができない児童がいると考えられるので、教室の広さのいくつ分かを考えさせたり、 $1\text{ m}^2$ の広さが分かる図を提示したりすることで、問題の意味が理解できるようにし、意欲化を図る。

#### (3) 個に応じた指導・援助の工夫

3コースの手だての違いを明らかにし、どんどんコースでは、立式後にどうしてそのような式になったのかを言葉の式とつなげて説明できるように助言する。ちやくちやくコースでは、ヒントコーナーに前時、学習した「 $1\text{ L}$ あたりの道のりを求めた数式と言葉の式」を表したカードをヒント、「言葉の式に数字を当てはめたカード」をヒントとし、準備しておく。こつこつコースでは、「 $90\text{ m}^2$ と $60\text{ m}^2$ がイメージできる図」を準備し、面積が違うときに比べるには、 $1\text{ m}^2$ あたりで比べればよいことに気付かせる指導・援助をする。

どんどんコースやちやくちやくコースの終末の練習問題では、ステージが進むにつれて問題を難しくし、児童が自分の力に合わせて意欲的に練習問題に挑戦できるようにする。また、ネームプレートを活用することで、児童の進捗を把握し、必要に応じて個別指導ができるようにする。

4 単元指導計画

単元名 第5学年「単位量あたりの大きさ」(10月) 全5時間

<既習の内容との関連と、本単元の評価規準の設定>

【前単元までに身に付けてきた内容】

- ・二つの量を直接比較したり、間接比較したり、あるもののいくつ分で比較したりすることができる。(小4)
- ・平均を求めることができる。(小5)
- ・平均の意味と求め方(小5)

【本単元の評価規準の設定】

算数への関心・意欲・態度	数学的な考え方	数量や図形についての技能	数量や図形についての知識・理解
・異種の二つの量の割合でとらえられる人口密度など、単位量あたりの大きさなどを用いて数値化したり、それらを進んで問題解決に生かしたりしようとする。	・異種の二つの量の割合としてとられる数量について、その比べ方や表し方を考えている。	・異種の二つの量の割合でとらえられる人口密度などを比べたり表したりすることができる。	・異種の二つの割合としてとらえられる数量について、その比べ方や表し方について理解している。 ・単位量あたりの大きさについて理解している。 ・1㎡でそろえて考えたとき、数値が大きい方が混んでいるととらえるなど、人口密度などの量の大きさについて豊かな感覚をもっている。

【今後の学習へのつながり】

- ・小5「割合」
- ・小6「速さ」

<単元指導計画(基本)>

(授業展開 知識・技能を習得すること、定着を図ること 知識・技能を活用し、思考力・判断力・表現力等を育むこと を表す)

小単元	単位量あたりの大きさ				基本の確かめ
時	1	2	3(本時)	4	5
ねらい	人数と面積を用いて、混み具合を比べることを通して、面積や人数が異なるときは、畳1枚あたりや1人あたりの畳の枚数にすると比べられることに気付き、混み具合を数値化して比べることができる。	走った道のりや使用したガソリンの量が違って、ガソリン1Lあたりに走る道のりを求めれば比べられることに気付き、それを活用して問題を解くことができる。また、「人口密度」の用語と、その意味、求め方を理解することができる。	いろいろな1あたりの大きさを求めることを通して、2つの異種の割合は、「単位量あたりの大きさ」を求めれば比べられることに気付き、それを活用して問題を解くことができる。	単位量あたりの大きさを求めてそれを何倍かすればよいことに気付き、単位量あたりの大きさをもとにして問題を解くことができる。	単位量あたりの大きさを適用して問題を解くことができる。
評価規準(終末の姿)	単位量あたりの考え方をを用いて、混み具合の比べ方を考えている。(数学的な考え方)	単位量あたりの大きさを求め、それを使って比べることができる。(技能)	単位量あたりの大きさを求め、それを使って比べることができる。(技能)	単位量あたりの大きさをもとにしていろいろな問題を解くことができる。(技能)	単位量あたりの大きさの意味を理解し、求めたり、比べたりすることができる。(技能、知識、理解)
授業展開					
主なつまずき	・面積や人数が異なるので、どのように比べたらよいか見通しがもてない。	・何を単位量にするのか分からない。	・何を単位量にするのか分からない。	・単位量を求め、その何倍かを求めればよいことに気付かない。	・「単位量あたりの大きさ」を求め、問題を解くことができない。
指導のポイント	<p>1 こみぐあいの比べ方の見直しをもつ。</p> <p>2 問題づかみ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書P.117問題1を読む。</li> <li>・AとBでは、同じ畳の枚数であるが人数が違う。</li> <li>・BとCでは、同じ人数であるが畳の枚数が違う。</li> </ul> <p>3 課題づくり</p> <p>人数もたたみの枚数もそろっていない場合のこみぐあいの比べ方を考えよう。</p> <p>4 一人学び</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・畳の枚数をそろえて、人数で混み具合を比べる。</li> <li>・人数をそろえて、畳の枚数で混み具合を比べる。</li> </ul> <p>5 仲間学び</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・畳1枚あたりの人数、1人あたりの畳の枚数で比べることができること。</li> <li>・混み具合を畳1枚あたりの人数で表すと分かりやすい。</li> </ul> <p>6 まとめ</p> <p>面積や人数が異なるときは、1人あたりの畳の枚数か畳1枚あたりにすると、こみぐあいを比べることができる。</p> <p>7 評価問題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・P.118鉛筆問題1</li> </ul>	<p>1 人口密度の求め方や意味を知る</p> <p>2 問題づかみ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書P.120の問題3を読む。</li> </ul> <p>3 課題づくり</p> <p>ガソリンの量や走った道のりがそれぞれちがうとき、走る道のりが長いのはどちらの自動車か比べよう。</p> <p>4 一人学び</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書P.120の問題3に取り組む。</li> <li>・ガソリン1Lあたりに走る道のりで比べる。</li> </ul> <p>5 仲間学び</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・父の自動車 <math>760 \div 40 = 19.025</math> (km)</li> <li>・兄の自動車 <math>735 \div 35 = 21</math> (km)</li> <li>・兄の自動車の方がガソリン1Lあたりに走る道のりが長い。</li> </ul> <p>6 まとめ</p> <p>ガソリンの量や走った道のりがそれぞれちがうときは、ガソリン1Lあたりに走る道のりを比べればよい。</p> <p>7 評価問題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・類似問題</li> <li>・練習問題</li> <li>・ステージ問題</li> </ul>	<p>1 問題づかみ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書P.120の問題4を読む。</li> </ul> <p>2 課題づくり</p> <p>1㎡あたりのとれ高を求めて比べよう。</p> <p>3 一人学び</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1㎡あたりのとれ高で比べる。</li> <li>・ひなさんの家の畑 <math>315 \div 60 = 5.25</math> (kg)</li> <li>・はるきさんの家の畑 <math>468 \div 90 = 5.2</math> (kg)</li> <li>・ひなさんの家の畑の方が1㎡あたりのとれ高が多い。</li> </ul> <p>4 仲間学び</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・畑からとれた大根の重さ÷畑の面積 = 1㎡あたりのとれ高</li> </ul> <p>5 まとめ</p> <p>面積や重さがそれぞれちがうときは、1㎡あたりのとれ高を比べればよい。人口密度やガソリン1Lあたりに走る道のり、1㎡あたりのとれ高などを「単位量あたりの大きさ」という。</p> <p>6 評価問題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・P.120鉛筆問題3</li> </ul> <p>7 練習問題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ステージ問題</li> </ul>	<p>1 問題づかみ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書P.121の問題5を読む。</li> </ul> <p>2 課題づくり</p> <p>20mの代金を求めよう。</p> <p>3 一人学び</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・20mが3mの何倍か分かれば、<math>135 \times</math> で求められる。</li> <li>・1mあたりの値段を求めれば、<math>\times 20</math> で求められる。</li> </ul> <p>4 仲間学び</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・数直線図から1mあたりの値段をもとにして考えればよいことに気付き、20mの代金を求める。</li> </ul> <p>5 まとめ</p> <p>1㎡あたりなどの単位量あたりの大きさをもとにして考えればよい。</p> <p>6 評価問題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書P.121鉛筆問題4・5</li> </ul> <p>7 練習問題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ステージ問題</li> </ul>	<p>単位量あたりの大きさを使っていろいろな問題を解こう。</p> <p>1 練習問題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書P.122の「まとめの練習」に取り組む。</li> <li>・問題が解けない、分からない場合は、ヒントコーナーや、「もどるページ」を参考にする。</li> <li>・「やってみよう」をやってみる。</li> </ul>
留意点・つまずきへの対応	・教科書のさくらさんとしょうたさんの考え方を利用して、畳1枚あたりの人数や1人あたりの畳の枚数で比べよう助言する。	・前時の1枚あたりや1人あたりで比べたことを想起させ、本時は、1あたりの量を何にするか考えさせる。	・前時の問題の760km(走った道のり)を40L(使用したガソリンの量)でわることガソリン1Lあたりの距離を求めたことが、数式と言葉の式で結びけられているものを手がかりにさせる。	・数直線図から関係をとらえ、1mあたりいくらになるかを求め、その20倍で答えが求められることに気づけるよう助言する。	・何を単位量あたりの大きさにすれば比べることができるのかを確認していく。

5 本時のねらい いろいろな1あたりの大きさを求めることを通して、2つの異種の割合は、「単位量あたりの大きさ」を求めれば比べられることに気付き、それを活用して問題を解くことができる。

6 本時の展開 (こつこつコース)

(3/5)

	学 習 活 動	指導・援助(人権教育の観点)	
問題 づかみ	<p>1 問題を読み、前時の学習内容を確認する。</p> <p>ひなさんの家の畑は <math>60 \text{ m}^2</math> で、<math>315 \text{ kg}</math> の大根がとれました。 はるきさんの家の畑は <math>90 \text{ m}^2</math> で、<math>468 \text{ kg}</math> の大根がとれました。 どちらの畑のほうがとれ高がよいといえるでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>面積も重さも違うからどうやって比べればいいのか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>前時までの学習内容を想起させるため、これまでの学習内容を掲示しておく。</li> <li>教室の広さのいくつ分や <math>1 \text{ m}^2</math> の広さを表した図で畑の広さや <math>\text{m}^2</math> の広さのイメージがもてるようにする。</li> <li>課題解決の見通しをもたせてから一人学びに入る。(本時求めることは <math>1 \text{ m}^2</math> あたりのとれ高であること、前時は <math>1 \text{ km}^2</math> あたりの人口や <math>1 \text{ L}</math> あたりの走行距離を求めたということを使って立式できるようにする。)</li> <li>見通しから課題を導く。</li> </ul> <p>&lt;個に応じた指導・援助&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>児童一人一人に、<math>90 \text{ m}^2</math> と <math>60 \text{ m}^2</math> がイメージできる面積の図を準備しておき、面積が違う場合を比べるには、何が同じならいいのかに気付くようにする。<math>90 \text{ m}^2</math> を <math>90</math> 等分、<math>60 \text{ m}^2</math> を <math>60</math> 等分するとそれぞれ <math>1 \text{ m}^2</math> になり、同じ大きさだから比べられることを視覚的にとらえられるようにする。次に、<math>1 \text{ m}^2</math> あたりのとれ高を求めるには、全体の大根の量を <math>90</math> や <math>60</math> でわると求められることに気付かせる。</li> </ul> <p>数量や図形に関する概念や原理・法則、簡潔に表現する方法や量を測定する方法等の適切な理解。(認識力)</p> <p>&lt;教えること&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「単位量あたりの大きさ」という言葉の意味をおさえる。</li> </ul>	
課題 づくり	<p>2 見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>昨日のガソリンの問題では、走った道のり÷使用したガソリンの量で <math>1 \text{ L}</math> あたりの道のりが求められたけど、今回は面積と大根の量だからどうしよう。</li> <li>とれ高って何のことだろう。</li> <li>わる数とわる数のはどっちになるのかな。</li> </ul> <p>3 課題をつくる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p><math>1 \text{ m}^2</math> あたりのとれ高を求め、比べよう。</p> </div>		
一人 学び	<p>4 自分の考えをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>面積の図から、同じ面積 (<math>1 \text{ m}^2</math>) あたりの大根のとれた量を求めると比べられることがわかった。</li> <li>とれた大根の量を面積でわればいいのか。</li> <li><math>1 \text{ m}^2</math> あたり何 <math>\text{kg}</math> を求めればいいのかから、 ひなさん... <math>315 \div 60 = 5.25</math> はるきさん... <math>468 \div 90 = 5.2</math></li> </ul> <p>どちらの畑のほうがとれ高が多いかを聞かれていて、多い方がとれ高が高いということだから答えは <math>5.25 \text{ kg}</math> のひなさんの方になる。 <u>答え ひなさんの家の畑</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>言葉の式 畑から取れた大根の重さ ÷ 畑の面積 = <math>1 \text{ m}^2</math> あたりのとれ高</li> </ul> <p>比べるためのポイントを見つける。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>面積や重さがそれぞれ違って比べられないときは、<math>1 \text{ m}^2</math> あたりの量(単位量あたりの大きさ)を求めれば二つを比べることができる。</li> </ul> <p>人口密度やガソリン <math>1 \text{ L}</math> あたり走る道のり、<math>1 \text{ m}^2</math> あたりのとれ高などを「単位量あたりの大きさ」という。</p>		
仲間 学び	<p>5 まとめにつながる類似問題を解く。 (じゃがいものとれ高を求める問題)</p> <p>6 学習のまとめをする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p><math>1 \text{ m}^2</math> あたりのとれ高を比べるには、畑から取れた大根の重さを面積でわるとよい。</p> </div>		
まとめ	<p>7 評価問題を解く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>P120 の鉛筆 3 を解く。</li> </ul> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>1 ダースで <math>960</math> 円のえん筆と、5本で <math>450</math> 円のえん筆では1本あたりのねだんはどちらが安いといえるでしょう。</p> </div> <p>単位量あたり(1本あたり)の値段を求めるためには、値段を本数でわればよい。</p> <p><math>960 \div 12 = 80</math> <math>450 \div 5 = 90</math> <u>答え 1ダースで <math>960</math> 円の鉛筆の方が安い。</u></p>		
			<ul style="list-style-type: none"> <li>鉛筆問題では、数値の低い方を解答として選ぶことになるので、問われているのは「安い方」であることをしっかりおさえる。</li> <li>評価問題がはやく終わった児童が取り組めるように練習プリントを準備しておく。</li> </ul>

- 5 本時のねらい いろいろな1あたりの大きさを求めることを通して、2つの異種の割合は、「単位量あたりの大きさ」を求めれば比べられることに気付き、それを活用して問題を解くことができる。
- 6 本時の展開 (ちゃくちゃくコース) (3/5)

	学 習 活 動	指 導 ・ 援 助 ( 人 権 教 育 の 観 点 )
問題 つかみ	<p>1 問題を読み、前時の学習内容を確かめる。</p> <p>ひなさんの家の畑は <math>60 \text{ m}^2</math> で、<math>315 \text{ kg}</math> の大根がとれました。 はるきさんの家の畑は <math>90 \text{ m}^2</math> で、<math>468 \text{ kg}</math> の大根がとれました。 どちらの畑のほうがとれ高がよいといえるでしょう。</p> <p>・面積も重さも違うからどうやって比べればいいのか。</p> <p>2 見通しをもつ。</p> <p>・昨日のガソリンの問題では、走った道のり ÷ 使用したガソリンの量で <math>1 \text{ L}</math> あたりの道のりがでたから、畑からとれた大根の重さを畑の面積でわればできそう。</p> <p>・ <math>1 \text{ m}^2</math> あたりのとれ高を求めるのだ。</p> <p>3 課題をつくる。</p>	<p>・前時までの学習内容を想起させるため、これまでの学習内容を掲示しておく。</p> <p>・教室の広さのいくつ分や <math>1 \text{ m}^2</math> の広さを表した図で畑の広さや <math>\text{m}^2</math> の広さのイメージがもてるようにする。</p> <p>・課題解決の見通しをもたせてから一人学びに入る。(本時求めることは、<math>1 \text{ m}^2</math> あたりのとれ高であること、前時は <math>1 \text{ km}^2</math> あたりの人口や <math>1 \text{ L}</math> あたりの走行距離を求めたということを使って立式できるようにする。)</p> <p>・見通しから課題を導く</p>
課題 づくり	<p>1 <math>\text{m}^2</math> あたりのとれ高を求めて比べよう。</p>	<p>&lt;個に応じた指導・援助&gt;</p>
一人 学び	<p>4 自分の考えをもつ。</p> <p><math>1 \text{ m}^2</math> あたり何 <math>\text{kg}</math> かを求めればいいのかから、 ひなさん... <math>315 \div 60 = 5.25</math> はるきさん... <math>468 \div 90 = 5.2</math> どちらの畑のほうがとれ高が多いかを聞かれていて、多い方がとれ高が高いということだから、答えは <math>5.25 \text{ kg}</math> のひなさんの方になる。 <u>答え ひなさんの家の畑</u></p> <p>5 全体交流する。</p> <p>・言葉の式 畑から取れた大根の重さ ÷ 畑の面積 = <math>1 \text{ m}^2</math> あたりのとれ高 比べるためのポイントを見つける。</p> <p>・面積や重さがそれぞれ違って比べられないときは、<math>1 \text{ m}^2</math> あたりの量(単位量あたりの大きさ)を求めれば二つを比べることができる。</p> <p>人口密度やガソリン <math>1 \text{ L}</math> あたりに走る道のり、<math>1 \text{ m}^2</math> あたりのとれ高などを「単位量あたりの大きさ」という。</p>	<p>・自分で立式ができない児童には、ヒントコーナーに行くように促し、前時の問題の <math>760 \text{ km}</math> (走った道のり)を <math>40 \text{ L}</math> (使用したガソリンの量)でわることによってガソリン <math>1 \text{ L}</math> あたりの距離を求めたことが、数式と言葉の式で結びけられているものをヒント、言葉の式に数字を当てはめることができるようにしたカードをヒントとして準備しておく。<math>60 \text{ m}^2</math> や <math>90 \text{ m}^2</math> でわればよいことが分かる図(ヒント)も準備しておく。</p> <p>&lt;教えること&gt;</p> <p>・「単位量あたりの大きさ」という言葉の意味をおさえる。</p> <p>・鉛筆問題では、数値の低い方を解答として選ぶことになるので、問われているのは「安い方」であることをしっかりおさえる。</p>
仲間 学び	<p>6 学習のまとめをする。</p> <p>1 <math>\text{m}^2</math> あたりのとれ高を比べるには、畑から取れた大根の重さを面積でわるとよい。</p>	<p>&lt;評価基準&gt;</p> <p>単位量あたりの大きさを求め、それを使って比べることができる。<u>技能</u> (ノート・発言・練習問題)</p>
まとめ	<p>7 評価問題をやる。</p> <p>・P120 鉛筆3を解く。</p> <p>1 ダースで <math>960</math> 円のえん筆と、5本で <math>450</math> 円のえん筆では1本あたりのねだんはどちらが安いといえるでしょう。</p> <p>単位量あたり(1本あたり)の値段を求めればよいから、 <math>960 \div 12 = 80</math> <math>450 \div 5 = 90</math> <u>答え 1ダースで <math>960</math> 円の鉛筆の方が安い。</u></p>	
練習	<p>8 ステージ1～4までの練習問題を解く。</p> <p>・ステージ1...類似問題(じゃがいものとれ高を求める問題)</p> <p>・ステージ2...肉や飲料の栄養成分など、身近な具体物の問題(具体物を準備し問題のイメージをもたせる)</p> <p>・ステージ3...1個あたりのりんごの値段を求める問題(具体物から離れていく)</p> <p>・ステージ4...こみぐあいを求める問題</p>	<p>数量や図形に関する概念や原理・法則、簡潔に表現する方法や量を測定する方法等の適切な理解。(認識力)</p> <p>・ステージごとに身に付けさせたい技能を明確にしたプリントを準備する。</p> <p>・児童の進度を把握できるようネームプレートを使う。</p>